

## 式 辞

本日ここに、能美市教育委員会教育長 谷口 徹 様をはじめ、多数のご来賓をお迎えし、第67回創立記念式典が開催できますことを、こころより感謝を申し上げます。

本校は、昭和26年、この近隣にあった寺井野町立寺井中学校、吉田村立吉田中学校、粟生村立粟生中学校、久常村立久常中学校の4つの中学校が統合してスタートいたしました。校章のデザインにある4つのペン先は、この4つの中学校の統合を表すものです。

そして、この創立以来、生徒、職員が目標としてきたものの中に、本校の校訓があります。入学式でも話しましたが、本校の校訓は大変素晴らしいものと感じています。今日の創立記念式という場を借りて、この校訓について、私が考えていることを話したいと思います。

最初は、「和して学ばん」です。

人はそれぞれ色々な個性や能力をもっています。勉強、スポーツ、音楽のどれかに優れている人、また、行事で頑張ることが好きとか、人の世話をすることが楽しいなど、それぞれ得意とするところが異なります。学校は、そういう様々な人が集まる場所なので、例えば、勉強で分からない人がいたら教えてあげる人がいる、困っている人がいたら助けてあげる人がいるなど、お互いにカバーし合うことがとても大事です。

また、得意な人同士でも、良きライバルとして競争する、つまり切磋琢磨することも必要です。本校の校訓が「和して学ばん」から始まるのは、学校が常に、みんなにとって優しい場所であり、お互いに協力しながら、仲間として高め合っ  
て欲しい、そういう願いがあるからではないでしょうか。

次は「汗して生きん」です。

これを考えるときに思い出すのが、野球のイチロー選手の言葉です。

「僕だって勉強や野球の練習は嫌いです。」

「誰だってそうじゃないですか。」

「辛いし、大抵はつまらないことの繰り返し。でも、子供の頃から、目標をもって努力するのが好きなんです。」

「だってその努力が結果として出るのは嬉しいじゃないですか。」

イチローのような大選手でも、多少苦しくても、嫌なことから逃げ出さず、今できる努力をしているということです。

また、時々、「どうせ、やってもできない」と、最初から諦める人もいますが、人はやろうと決めれば必ず伸びます。自分の限界を自分で決めないことが大切であり、「目標を決め、やればできるというプラス思考」、それが「汗して生きんだ」と思います。

最後は、「創造の力みがかん」です。

では、「創造の力みがかん」とは、学校生活で何を意味するのでしょうか。

辞書で創造とは「新しいものを造り出すこと」と書かれています。しかし、新しいものを造り出すには、そのもとになる材料と造りかえる力が必要です。料理に例えると、肉や野菜などの材料を、料理する人が美味しい食事に変えます。創造もこれと同じで、もとになる材料は知識や体験、変える力は「考える力」です。

つまり、「日々の授業や活動を大切に、知識を学び、体験を積み、それをもとに考える力を磨くこと」、それが「創造の力みがかん」です。他の中学校ではなかなか見ることのない、寺井中ならではの校訓です。

以上が、私が校訓について考えたことであり、本校の校訓が目標とする所は、今の学校生活だけではなく、皆さんがこれから生きていく時代においても、とても大事です。

ぜひ、今日の創立記念の日を機会に、校訓の意味を踏まえ、自分自身のことや学校生活を振り返り、未来に向かってさらにより良くなっていくことを期待し、式辞といたします。

平成29年10月19日

能美市立寺井中学校

校長 中田 一宏